

東京製鐵

東京製鐵は鉄スクラップを主原料に電気炉で鉄を作る、いわゆる電炉メーカーだ。鉄鉱石や原料炭で鉄を作る高炉法に比べて二酸化炭素（CO₂）の排出量が少ない点や、鉄スクラップをアップサイクルする電炉法をアピールすることで循環型社会に貢献する。また工場における再生可能エネルギー導入拡大などを通して、脱炭素社会の実現に取り組んでいる。

同社は「Tokyo Steel EcoVision 2050」と、同年の生産量100万トン達成を目標に掲げ、脱炭素および循環型社会への寄与を目指す。一つが、工場での再生エネルギー導入拡大だ。田原工場（愛知県田原市）、岡山工場（岡山県倉敷市）、岡山工場（北九州市若松区）、宇都宮工場（宇都宮市）の敷地内で太陽光発電を実施して、電力供給が多い時間帯に電気の積極的な使用を促す機能「上げDR（デマンド・レスポンス）」にも取り組んでいる。2017年度に九州工場でも取り組んでいる。2017年度に九州工場でも取り組んでいる。2017年度に九州工場でも取り組んでいる。

モノづくり現場

生産革新・脱炭素社会への挑戦

7

工場で上げDR推進



再生エネ電力 電炉に活用

脱炭素および循環型社会への寄与を目指す。一つが、工場での再生エネルギー導入拡大だ。田原工場（愛知県田原市）、岡山工場（岡山県倉敷市）、岡山工場（北九州市若松区）、宇都宮工場（宇都宮市）の敷地内で太陽光発電を実施して、電力供給が多い時間帯に電気の積極的な使用を促す機能「上げDR（デマンド・レスポンス）」にも取り組んでいる。2017年度に九州工場でも取り組んでいる。2017年度に九州工場でも取り組んでいる。2017年度に九州工場でも取り組んでいる。

上げDRを2017年度から実施している九州工場の電炉

そのり、全量を自家消費して、電力供給が多い時間帯に電気の積極的な使用を促す機能「上げDR（デマンド・レスポンス）」にも取り組んでいる。2017年度に九州工場でも取り組んでいる。2017年度に九州工場でも取り組んでいる。2017年度に九州工場でも取り組んでいる。

【事業所概要】▽本社所在地：東京都千代田区霞が関3の7の1▽製造拠点：田原工場（愛知県田原市）、岡山工場（岡山県倉敷市）、岡山工場（北九州市若松区）、宇都宮工場（宇都宮市）の敷地内で太陽光発電を実施して、電力供給が多い時間帯に電気の積極的な使用を促す機能「上げDR（デマンド・レスポンス）」にも取り組んでいる。2017年度に九州工場でも取り組んでいる。2017年度に九州工場でも取り組んでいる。2017年度に九州工場でも取り組んでいる。

これからの取り組みが奏功し、23年度のCO₂排出原単位は基準年の13年度比34%減となった。東京製鐵総務部総務課係長代理の有賀優氏は「昼に電炉の稼働率が上がり、効率的な向上にもつながる」と強調。社会課題に「火・木曜日に掲載」